



「いつもすてきないちょうとともに武蔵台小」

嶋田 理花（4年）

審査員コメント

横一列に並んだ銀杏は学校を守っているかのよう。平面的になりがちな構図に敢えて向き合う勇気はどこから？そんな疑問はすぐに吹き飛びました。

それは・・・左右手前に突き出た枝、うねる校舎と窓、空の微妙な濃淡、広がる芝生のぼかし処理。全てが独特のリズムとなり引き込まれます。主役の銀杏は異なる差し色で際立っています。しかし一番大切なのは作者の銀杏への想いがこの絵の魅力を引き出したことだけは間違いありません。

審査員 中条春野